

平成二十九年十一月一日提出  
質問 第二二号

核燃料サイクルについての世耕経済産業大臣の発言に関する質問主意書

提出者 逢坂 誠二

## 核燃料サイクルについての世耕経済産業大臣の発言に関する質問主意書

世耕経済産業大臣は、九月十九日、二十日に青森県を訪問し、青森県知事や原子力関連施設のある市町村の首長と会談した。その訪問中、青森県庁で三村青森県知事と会談した際、「核燃料サイクルを推進する国の基本方針に変わりはない」との発言を行ったと承知している。

この世耕経済産業大臣の発言について、政府の見解を確認したいので、以下質問する。

一 「核燃料サイクルを推進する国の基本方針に変わりはない」という世耕経済産業大臣の発言は、政府の基本方針であるという理解でよいか。見解を示されたい。

二 一に関連して、「核燃料サイクルを推進する国の基本方針に変わりはない」ということは、現在、建設中の大間原子力発電所の建設を進め、稼働させるという方針に「変わりはない」という理解でよいか。見解を示されたい。

三 十月二十三日の函館新聞では、今次の総選挙における北海道八区の有権者を対象にした調査の結果、「原発・エネルギー」を関心事として選んだ人の七十二%が逢坂誠二に投票したことを報じている。逢坂誠二は、選挙期間中、大間原発の建設凍結を強く主張し、選挙公報でも「具体的な行動で大間原発の凍

結」を訴え、北海道八区で当選させていただいた。これは、北海道八区の有権者の「国の基本方針」に対する強いノードである。このような民意が示されているにもかかわらず、政府は、「核燃料サイクルを推進する国の基本方針に変わりはない」と考え、現在、建設中の大間原子力発電所の建設を進め、稼働させるという方針に「変わりはない」のか。政府は基本方針を見直すべきではないか。見解を示されたい。右質問する。